

866T

普通拭淨法

遊底ヲ開キ銃身ノ内外ヲ軟布ニテ拭ヒ僅ニ塗油スヘシ尾筒ノ内  
外ヲ掃除スルモ亦然リ

凡テ鐵具ノ外面ハ油ニ浸シタル布片ヲ以テ拭フヘシ表尺ハ油ヲ  
注キ遊標ヲ上下スルコト數回更ニ布片ヲ以テ拭ヒ樞軸ニハ適宜  
ニ油ヲ注クヘシ

受筒飯ハ外部ヨリ之ヲ拭ヒ適宜ニ塗油スヘシ若シ雨雪中ノ行軍  
後或ハ塵埃ノ彈倉内ニ侵入シタルトキハ彈倉底飯ヲ脱シ之ヲ清  
淨シタル後適宜ニ塗油スヘシ

四十二

666T

底遊ハ分解セスシテ外面ヲ拭ヒ塗油ス若シ濕氣又ハ塵埃ヲ蒙リタル場合ニハ分解シテ充分ニ掃除スヘシ

銃床ハ乾キタル布片ヲ以テ拭フヘシ若シ手垢等ノ附着シテ容易ニ除去シ難キ時ハ石油若クハ揮發油ニ浸シタル布片ヲ以テ拭フヲ良トス

銃劍及銃鍊ハ乾キタル布片ヲ以テ之ヲ拭フヘシ

### 發射後ノ拭淨法

發射セシ銃器ハ成ルヘク速カニ拭淨スヘシ時間ヲ經過スレハ拭淨困難トナルモノナリ

0002

四十四

銃腔ヲ拭淨スルニハ遊底ヲ除キ糊杖ノ一端ニ洗管ヲ接續シテ布片ヲ附着シ之ヲ銃口ヨリ送入シ徐ロニ數回上下スヘシ腔内僅ニ光輝ヲ發スルニ至レハ布片ヲ去リ更ニ油ニ浸シタル布片ニ換ヘ上ノ如クシテ腔内ニ塗油スヘシ

腔内ニ滓渣多キトキハ油ニ浸シタル布片ヲ以テ拭ヒ然ル後チ前法ヲ行フ

藥室部ノ後端遊頭室、蹴子溝及抽筒子溝ハ藥室掃除器ニ布片ヲ卷キ徐カニ掃除シ然ル後僅ニ塗油スヘシ

藥室ハ鋪ヲ防キ抽筒子ノ機能ヲ容易ニセンカ爲メ僅ニ塗油スル

ヲ要ス

遊底 通常遊底ハ分解セスシテ掃除スヘシ遊頭蹴子及擊莖頭ハ殊ニ叮嚀ニ拭淨スルヲ要ス若シ藥莖ノ破裂ニ因リ火藥瓦斯、銃尾機關内ニ侵入セントキ或ハ久シク使用セサル銃ニテ射撃シタルトキハ悉ク分解シテ掃除スヘシ總テ遊底ノ摩擦部ニハ常ニ適宜ノ油ヲ注クヘシ

右ノ外總テ普通拭淨法ニ準スルモノトス

精密拭淨法

尋常ノ拭淨法ヲ以テ充分清淨ナラシムルヲ得サル部分ヲ掃除ス

ル爲メ銃ノ各部ヲ悉ク分解シテ行フ之ヲ精密掃淨法ト云フ此法ハ平時ニ在テハ一年ニ一回(秋期機動演習後)銃工長及其助手ノ補助ヲ以テ之ヲ行フモノトス又久シク使用セシ後チ倉庫ニ格納スヘキ銃ニ精密拭淨法ヲ行フトキハ兵器委員之ヲ監査スルヲ要ス

銃ヲ全ク分解スル前ニ銃床ニ附着セル手垢及塵埃ヲ含有スル油等ノ如キ汚物ヲ悉ク除去スヘシ若シ塗漆剝脱シタルトキハ亞麻仁油ニ浸シタル布片ヲ以テ銃床ノ木色光澤ヲ呈スルニ至ル迄摩擦スヘシ銃身ハ保存永續ノ爲メ全ク銃床内ニ嵌入セル部分モ悉

3002

ク清淨ニスヘシ然レトモ己ニ銃床ヨリ離脱セシ後ハ其屑撓ヲ避  
クル爲メ之ニ強壓ヲ加ヘサル如ク注意スルヲ要ス其清拭法左ノ  
如シ

僅少ノ鏽或ハ樹脂狀ニ發生セル油ハ石炭油若クハ粗製曹達水等  
ヲ以テ溶解シ然ル後銃身ヲ垂直ニ保持シ紙布ニテ拭ヒ塗油スヘ  
シ

螺子孔ニハ布片ヲ旋入シ螺子ノ螺絲部ハ布片ヲ以テ旋回シツ、  
掃除スヘシ之ヲ螺定スルトキハ一二滴ノ油ヲ注クヲ要ス  
發條ノ作用自在ナラサルトキハ銃工長ヲシテ修理ヲ加ヘシメ且

ツ之ヲ清淨ニシ然ル後チ其摩擦面ニ一二滴ノ油ヲ注キ以テ其位置ニ固定スヘシ

清淨法ヲ行ヒタル後チ銃身及尾筒ハ更ニ乾布ヲ以テ之ヲ拭淨スヘシ但シ手汗ハ後來錆ヲ發生スルノ媒介トナルヲ以テ乾布拭淨ノ後未タ塗油セサル前ニ於テ銃身ニ手ヲ觸ル、ヲ避クヘシ  
銃床中銃身尾筒等ニ接合セル部分ハ布片ヲ以テ之ヲ拭淨シ汚物ヲ除去スヘシ

銃身ヲ脱去セシ銃床ハ損傷ヲ受ケシメサル如ク注意スルヲ要ス又屈撓ヲ避ル爲メ障壁等ニ斜ニ立テ掛ケ或ハ日光又ハ流通空氣

2005

ニ晒シ或ハ暖爐ノ近傍ニ置クコトヲ禁ス  
上帶、下帶ハ内外面共ニ清淨シ然ル後チ僅ニ塗油シテ之ヲ嵌裝  
スヘシ

### 銃ノ拭淨法注意

一凡テ染烘セル鐵具ハ磨粉ヲ以テ摩擦スヘカラス必ス軟布ヲ以  
テ之ヲ拭ヒ僅ニ純精白絞油、鑛油ワセリン油若クハ脂ヲ塗ル  
ヘシ若シ鏽ヲ生シタルトキハ乾燥セシ布片ニテ拭ヒ油ヲ注キ  
二三時間經過シタル後新シキ布片ヲ以テ摩擦シ再ヒ塗油スヘシ  
此ノ如ク反復施行スレハ終ニ鏽ヲ消却シ暗色ノ皮膚ヲ呈スルニ



至ルヘシ此法ヲ用ルモ尙ホ不充分ナルトキハ銃工ニ附スヘシ  
 野外演習ノ際泥土ノ附キタル手ヲ以テ銃身ヲ握リ若クハ演習  
 後砂塵ノ附着スルヲ拂ハスシテ直チニ布片ヲ以テ其上ヲ拭フ  
 ハ恰カモ膠粉ヲ以テ摩擦スルニ異ナラス染烘ノ剝脱之ニ原因  
 スルモノ多シ宜ク注意スヘシ

二銃腔内ニ發生セシ鏽ハ洗管ヲ附シタル棚杖或ハ洗矢ヲ以テ前  
 掲ノ如ク拭淨法ヲ反復スヘシ但シ此際布片ヲシテ充分ニ腔綫  
 ト實部ノ隅角中ニ壓入セシムル如ク注意スルヲ要ス何トナレ  
 ハ此部ハ最モ發鏽シ易ケレハナリ又腔中ノ掃除ハ銃口ヨリ藥

室ニ至ル迄粉メテ齊等ナラシムヘシ

又洗管或ハ洗矢ヲ以テ掃除シ能ハサル物質銃腔内ニ固着セシ  
トキハ銃工ニ附シテ整理セシムルヲ要ス

三 染烘セサル鐵具ハ油ニ浸タル布片ヲ以テ拭ヒ光澤ナキ白色ヲ  
見ハスニ至ラシムヘシ若シ微鏽ヲ生シタルトキハ磨粉或ハ砥  
ノ粉ヲ油ニ和シ布片或ハ軟木片ニ附シテ之ヲ摩擦シ後テ乾キ  
タル布片ヲ以テ拭フヘシ而シテ尙ホ不充分ナルトキハ銃工ニ  
附スルモノトス

但シ遊頭圓筒尾筒ノ内面及擊莖ノ尖頭ノ如キハ染烘シアラ

8002

スト雖モ磨粉、砥ノ粉等ヲ用ユルヲ嚴禁スヘシ

五螺子孔其他剝割部ニ磨粉ヲ殘留セシムヘカラス

六表尺脚、逆鉤其他摩擦ヲ受クル部ニハ適宜ニ油ヲ滴スヘシ

七凡ソ掃除シタルモノハ少許ノ油ヲ塗り螺子ニハ適宜ニ油ヲ注クヘシ

八地上ニ落セシ洗管洗矢及布片等ハ砂塵ノ附着セサルヤ否ヲ改

メ充分除去シタル後ニアラサレハ決シテ使用スヘカラス

九防鏽ノ爲メ油ヲ塗抹スヘキ部分ハ豫メ充分清潔ニ掃除スヘシ

決シテ汗手ヲ以テ握ル可ラス

五十二

兵卒ハ前諸條ノ説明ニ因テ分解法、結合法及拭淨法ヲ充分精密ニ行フトキハ必ス良結果ヲ得ヘシ特ニ所屬ノ士官及下士ニ於テ屢々此説明ヲナシ且ツ一般ニ之ヲ實行セシムルノミナラス躬自ラ此定則ヲ實行シ尙ホ間斷ナク之カ検査ヲ行フヲ肝要トス

### 銃ノ取扱及保存ノ注意

凡ソ兵卒銃ノ取扱ヲ爲スヤ一器一具ノ上ニ就キ細心注意ヲ須ヒサルヘカラサルモノ極メテ多シ若シ些細ノコト、シテ之ヲ放擲スルトキハ目前大害ナキカ如シト雖モ其結果ハ終ニ銃ノ全體ニ及フヘキヲ以テ一器一具ノ微ト雖モ常ニ注意ヲ怠ラサルヲ要ス

故ニ新兵ニハ演習ヲ行フノ初メヨリ銃ノ取扱ニ最モ注意セシメ  
殊ニ機關ノ結構ハ仔細ニ教授シ以テ自ラ其銃ヲ愛シテ常ニ其身  
ヲ之ニ委スルノ念慮ヲ起サシムヘシ

銃ノ取扱ニ要スル注意、格納法及包纏法ハ左ノ如シ

一銃身及照準機ノ損傷ハ射撃上大ナル關係ヲ及ボスモノナルヲ  
以テ最モ注意ヲ要スルモノトス

二總テ銃ハ成ルハク地上ニ置クコトヲ避クヘシ若シ止ムヲ得サ  
ル場合ニ於テモ銃口、照尺及機關部ハ直接地上ニ觸レシムヘ  
カラス

若シ土砂及雪等ノ銃腔中ニ侵入セシトキハ如何ナル場合ト雖  
 モ之ヲ除去スルニアラサレハ決シテ射撃スヘカラス何トナレ  
 ハ微細ナル塵粉ト雖モ射撃ノ際腔中ヲ損害スルコトアレハナリ  
 三銃ヲ使用セサルトキハ常ニ銃口蓋ヲ冠シ置クヘシ然レトモ射  
 撃ヲ行フ爲メ營外ニ携帯スルトキハ必ス脱去スルモノトス又  
 木栓或ハ紙栓ヲ以テ銃口蓋ニ代用スルヲ禁ス斯ノ如キ品質ハ  
 通常銃口部ニ鏽ヲ促スノ原因トナリ若シ一タヒ發鏽スルニ及  
 テハ之ヲ除去セントスルモ頗ル困難ナルニ至ルヘシ  
 雨雪天ノ際行軍ヲナスニハ豫メ銃身、銃床ノ接着面ニ豚脂或

2012

五十六

ハ密蠟ヲ塗抹シ置クヘシ此レ水分ノ浸入ヲ防カンカ爲メナリ  
四銃ヲ轉倒シ或ハ之ヲ衝突スルカ如キハ命中ヲ害スルノ患アリ  
最モ戒慎セサルヘカラス若シ此過失ヲナセシ兵卒ハ速カニ報  
告シテ検査ヲ受クルコト緊要ナリ

銃身ハ銃床ニ結合セシトキハ多少屈撓ニ抗堪スルノ力アルモ  
之ヲ分解スルトキハ此抗堪力微弱ナリ故ニ最モ注意シテ取扱  
ハサルヘカラス

五行軍演習或ハ運搬ノ際銃ヲ携帯スルトキハ堅硬ナル物體若ク  
ハ背囊負帶ノ金屬具等ニ觸レ銃床ニ損傷ヲ受ケシメサル如ク

## 注意スヘシ

一名ノ兵卒ヲシテ數挺ノ銃ヲ携帶セシムヘカラス成ルヘク一名一挺ニ限ルヲ要ス此レ兩銃相衝突シテ損傷スルノ患アレハナリ若シ行軍中等萬止ムヲ得サルトキ二挺ノ銃ヲ携持スルコトアルモ決シテ相摩擦セサル如ク注意スヘシ又銃ヲ携帶スルトキハ之ニ他ノ物品ヲ掛クルヲ禁ス

六銃ヲ銃架ニ架スルニハ激突セサルコトニ注意スヘシ此レ照星ヲ毀損シ或ハ銃身ノ着色ヲ剝脱スルノ患アレハナリ

七床尾ヲ地上ニ置クトキハ決シテ衝突スヘカラス何トナレハ銃



尾ヲ毀損スルノ恐アルノミナラス床尾飯附着ノ螺子ヲ破損スルヲ以テナリ

八射撃ニ用ヒシ銃ニ拭淨法ヲ行ヒタル時ハ翌朝ニ至リ腔中ニ發鏽セサルヤ否ヤヲ再ヒ検査スルヲ要ス

九銃ヲ貯藏スルニハ成ルヘク乾燥ニシテ且ツ塵埃ナキ場所ヲ撰擇シ而シテ鐵部ハ防鏽ノ爲メ充分ニ塗油スルヲ要ス

銃ヲ使用セサルトキハ擊莖發條ヲシテ強壓ヲ受クシメサル爲メ必ス擊鐵ヲ下スヲ要ス

十銃ヲ格納セシ倉庫ニ空氣ヲ流通セシムルニハ庫外ノ溫度庫内

ヨリ高キ時ニ於テセサルヲ要ス（即チ寒冷ヨリ温暖ニ變遷スル時）何トナレハ温暖ナル空氣中ニ含有スル濕氣寒冷ナル金屬部ニ感觸シ爲メニ之ヲ發汗セシ如ク濕潤セシメ遂ニ發錆ノ媒介トナルヲ以テナリ

其他空氣ヲ流通セシムルトキ若クハ作業ノ爲メ庫内ニ入ラントスル時ハ成ルヘク乾燥セシ日若クハ霽天ノ時日ヲ撰擇シテ行フヲ良トス

十一銃ヲ運搬スル際之ヲ包纏スルニハ（特別ノ包纏具ナキ時）菰ニテ卷クヲ最良法トス但シ該作業ヲ施行スルニハ先ツ銃口ヨ

リ始メ床尾飯ヲ除クノ外ハ總テ外面ヨリ目視シ能ハサル如ク  
 厚ク巻繞スヘシ而シテ其表面結繩ノ箇所ハ弛解スルノ患ナカ  
 ラシムルヲ要ス又已ムヲ得サル場合ニ於テハ銃身及尾筒上ニ  
 藁ヲ卷キ以テ運搬スルコトアルヘシ野營演習行軍等ニ於テ患  
 者ノ銃ヲ運搬スルトキハ一般ニ損傷ヲ受ケサル如ク包纏ニ注  
 意スルヲ要ス

### 銃ノ修理

兵卒ニハ決シテ自身ニ銃ヲ修理スルヲ許サス何トナレハ兵卒ノ  
 修理ヲナスヤ通常拙劣ナルノミナラス或ハ一時姑息ノ手段ヲ施

スヲ以テ却テ其修理スヘキ部分ヲ増加セシメ途ニ其一部ヲ廢棄  
スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムルヲ以テナリ故ニ銃ノ不具合ニ  
シテ其原因詳カナラサルトキハ必ス銃工長ヲシテ之ヲ検査セシ  
ムルヲ要ス

携帶豫備品ハ何レノ銃ニモ適合スト雖モ些少ノ大小アルヲ以テ  
平時豫メ彼是交換シテ最モ良ク適合スルモノヲ撰ミ各銃固有ノ  
モノヲ定メ置クヲ可トス

### 銃ノ検査法

銃ノ手入ハ兵卒注意ノ良否ニ關スルモノナリト雖モ又之ヲ検査

スルモノ、着意ニ從テ大ニ其趣ヲ異ニスルモノナリ例ヘハ検査者ニシテ専ラ研磨ヲ主トシ白鐵ノ光輝アルヲ稱譽スルトキハ兵卒ノ留意スル所自然此弊風ニ傾キ知ラス識ラス機關ヲ磨滅シ其作用ヲ害シ銃ノ命數ヲ短縮スルニ至ルヘシ故ニ銃ノ保存ヲ完全ナラシメント欲セハ検査ノ方法ヲ規定スルコト最モ緊要ナルモノトス

普通検査ノ大要左ノ如シ

第一 鏽ノ發生シアラサルヤ否ヤ

第二 塵埃泥土ノ附着シアラサルヤ否ヤ

6107

第三 染烘セサル部分ハ凡テ光澤ナキ白色ヲ呈シアルヤ否ヤ  
第四 染烘剝脱セサルヤ否ヤ  
第五 注油適度ナルヤ否ヤ  
第六 各部ノ螺子ハ適當ニ締結シアルヤ否ヤ  
腔中ニ錆ヲ生セサルヤ、布片其他物質ノ附着セサルヤ特ニ膨脹  
部ヲ生セサルヤ否ヤヲ細密ニ検査スルニハ遊底ヲ脱シ光線ヲ腔  
中ニ導キ前後ヨリ視認スルモノトス通常唯外部ヨリ検査スト雖  
モ機關ノ運動及内部ニ故障アルヲ認メタルトキハ銃工長ニ附シ  
テ之ヲ確メシムルヲ要ス

2020

検査ノ際故障ヲ認メタル銃ハ其故障ヲ銃ノ履歷簿ニ明記シ置ク  
ヘシ

六十四

射撃前ニ於ケル検査左ノ如シ

第一 銃尾機關ノ運轉宜シキヲ得ルヤ否ヤ

第二 銃腔内ハ清潔ニシテ布片若クハ外物ヲ留メサルヤ否ヤ

第三 藥室ハ滑カニシテ其口部ニ起縁ヲ生セサルヤ否ヤ

第四 抽筒子及蹴子ノ室並ニ駐退筒ノ室ハ充分清潔ナルヤ否ヤ

第五 銃尾機關ノ摩擦部特ニ遊底ノ螺旋部ニ塗油シアルヤ否ヤ

射撃後ニ在テハ銃ニ裝填シアラサルヤヲ検査スヘシ

2021

附 録

彈 藥

彈藥ハ實包、空包、擬製實包ノ三種トス

實 包

實包ハ藥莢、雷管、裝藥及彈丸ヨリ成ル(第二十八圖)

藥莢ハ黃銅ヲ數回鍊擗シテ之ヲ製ス其全長ハ五十一密米ニシテ  
其形狀ハ圓筒部及圓臺部ヨリ成リ前身ヲ彈丸室ト云ヒ後身ヲ裝  
藥室ト云フ之ヲ連續スルニ曲線部ヲ以テス底ニ起縁及起縁溝ア  
リ抽筒子ヲ鈎スル爲ニス又雷管室アリ雷管ヲ嵌入セシムルノ用



ニ供ス其底ノ中央ニ小凸起部ヲ設ケテ雷管ノ發火ヲ確實ナラセ  
 雷管ハ黃銅製ノ小盃狀ニシテ零瓦零二ノ爆粉ヲ盛リ錫ノ薄葉ヲ  
 以テ之ヲ掩覆ス  
 裝藥ハ無煙小銃藥ニ瓦零七ヲ裝填ス  
 彈丸ハ白銅ノ被套ト純鉛トヨリ成ル中徑六密米六五長サ三十二  
 密米五〇而シテ其重量ハ十五五〇トス  
 實包全量ハ二十二瓦トス  
 實包ハ五發宛挿彈子ニ挿入シタルモノ三個合シテ紙函ニ入レ千

2023

貳百六拾發ヲ一箱トス其重量約四十一吉瓦ナリ  
掃彈子ハ黃銅製ノ薄葉管ニシテ内部ニ鋼製ノ平扁發條ヲ具シ五  
個ノ彈藥ヲ掃括ス

空包

空包ハ藥莖、雷管、裝藥及紙製ノ擬製彈丸ヨリ成ル  
藥莖、雷管ハ實包ノモノニ異ナルコトナシ  
擬製彈丸ハ厚紙ヲ以テ製シ外部ニ空包塗料「ベルニー」ヲ塗抹セ  
シモノナリ  
裝藥ノ量ハ零瓦八ニシテ小銃用無煙空包藥ヲ用ユ

六十七

2024

空包ノ全量十五瓦四二トス

空包ハ五發宛挿彈子ニ挿入シ十五發宛紙函ニ入レ一括トス

擬製實包

擬製實包ハ藥莖及擬製彈丸ヨリ成リ共ニ黃銅製トス藥莖ニハ火藥ト雷管トヲ裝セスト雖モ爆粉ヲ有セサル銅製ノ管ヲ嵌裝セリ又其外部ニハ二條ノ刻線帶ヲ施ス彈丸ニモ亦二條ノ帶溝アリ挿彈子ハ全部鋼製ニシテ暗色ニ染焔シ其結構ハ實包ノモノニ同

彈藥盒

六十八

2025

歩兵銃ノ彈藥盒ハ前盒二個後盒一個ヲ帶革ニテ貫連シ携帶彈藥  
ヲ容ルヽニ供ス前盒ハ隔板ニ依リテ分隔シ彈藥紙函ニ準スル形  
狀ヲ保タシメ二包ノ彈藥ヲ容ルヽヲ得但シ紙函ノ上蓋ヲ剝キ取  
ルヲ要ス後盒モ亦隔板ヲ以テ二部ニ分隔シタル長方形ノ函ニシ  
テ各部ニ二包ノ彈藥ヲ容レ得ヘシ其兩側面並ニ外面ニ轉螺器、  
油燻及藥室掃除器ヲ装着スル室ヲ設ク其底面ニハ二個ノ楕圓孔  
ヲ穿テ彈藥ノ抽出ヲ便ニス(第二十九圖)

騎銃ノ彈藥盒ハ負革及帶革ヲ附ス盒内ヲ三室ニ分隔シ中央ノ室  
ハ轉螺器及油燻ヲ容レ兩側ノ室ニハ彈藥各十五發ヲ容ルヽニ供

ス外部ニハ藥室掃除器及洗管ヲ装着スル室ヲ設ク(第三十六圖)

七十

### 革具手入法

革具ハ褐色堅牛革ト褐色多脂牛革ノ二種ヲ以テ製セリ即チ前盒ノ蓋革及各彈藥盒ノ隔板ハ褐色堅牛革ヲ以テ製シ其他ノ外革及劍鞘帶革負革其他ノ附屬革ハ悉ク褐色多脂牛革ナリ

褐色堅牛革ハ脂分ヲ含ムコト少量ニシテ極メテ厚キ牛革ヲ壓搾シテ製セリ又褐色多脂牛革ハ性質多脂ナルカ爲メ柔軟ナリ故ニ之レカ手入保存モ亦各其性質ニ適合セサルヘカラス即チ褐色堅牛革ノ如キ元形ヲ保持ス可キ部分ハ脂分ヲ與フルコト少量ニシ

ヲ終始變形セサルコトニ着意セサルヘカラス之ニ反シテ褐色多  
 脂牛革ヲ以テ製シタル部分ハ常ニ柔軟ノ性質ヲ望ムモノナレハ  
 多量ノ脂分ヲ含ムコト必要ナリ若シ此革ニシテ脂分缺乏スレハ  
 使用ノ際忽チ龜裂ヲ生シ表面ヨリ壞損シ復タ用ユヘカラサルニ  
 至ルヘシ

革具ニ使用スヘキ油ノ種類

一 鯨油 鯨油ノ純粹ナルモノハ大ニ革具ニ適スルモ下等魚油即  
 チ鯨油及鰵油等ヲ混合セルモノハ乾燥性ヲ有スルカ故ニ一ケ  
 月或ハ二ヶ月ヲ經過セハ樹脂ノ如キモノヲ生スルノミナラス

乾燥ノ結果革部ノ纖維ヲ分離セシメ終ニ表面ニ龜裂ヲ生スル  
ニ至ルヘシ

七十一

ニ複合脂 此脂ハ季候ニ依リテ其混合法ヲ異ニス

夏期 牛脂ニ 鯨油一 或ハ 羊脂一 馬油一

冬期 牛脂一 鯨油一 或ハ 馬油一 鯨油一

手入法 常用ノ革具ハ演習後刷毛或ハ毛布片ヲ以テ表裏面ヲ拭  
ヒ其塵埃ヲ除去シ時々毛布ニ少量ノ脂ヲ濕シ之ヲ摩擦スヘシ又  
日々手入スルノミナラス尙ホ時々大手入ヲ行フヲ良トス

大手入ハ革具ノ表面ニ塵埃附着シタルタメ之ニ塗脂スルモ其織

2029

維内ニ侵入スルコト能ハサルトキ行フモノナリ其法水桶中ニ四  
五時間浸シ刷毛ヲ以テ摩擦シ後チ清水ニテ之ヲ洗滌シ之ヲ陰乾  
シテ水分ノ將ニ蒸發シ盡キントスルトキ脂料ヲ施シ然ル後約一  
時間放置スルトキハ脂ハ纖維中ニ侵潤シ水分ヲ悉ク蒸發ス而シ  
テ其表面ニ殘留スル油ヲ拭除スルヲ要ス



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	<table border="1" data-bbox="574 470 1053 739"><tr><td data-bbox="574 470 813 739">1</td><td data-bbox="813 470 1053 739">2</td></tr></table>	1	2
1	2		
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため		

上記のとおり分割撮影したことを  
証明する

11年10月28日

主務者又は

撮影立会者

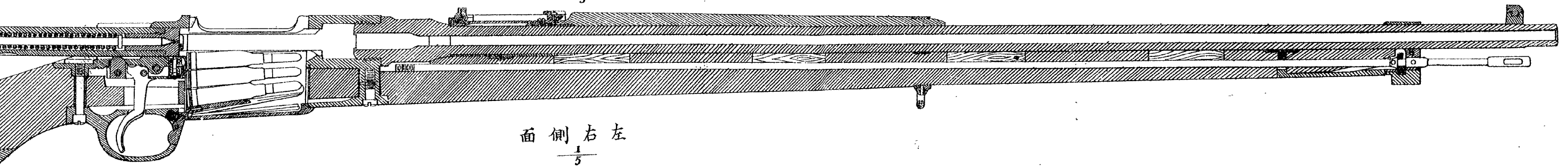
上野英樹



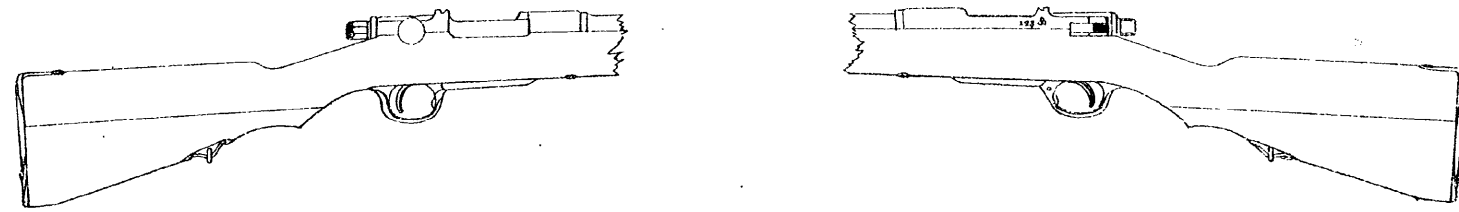
2030

第一圖

縱斷面  
 $\frac{2}{5}$



左右側面  
 $\frac{1}{5}$



三十年式歩兵銃及騎銃保存法附圖

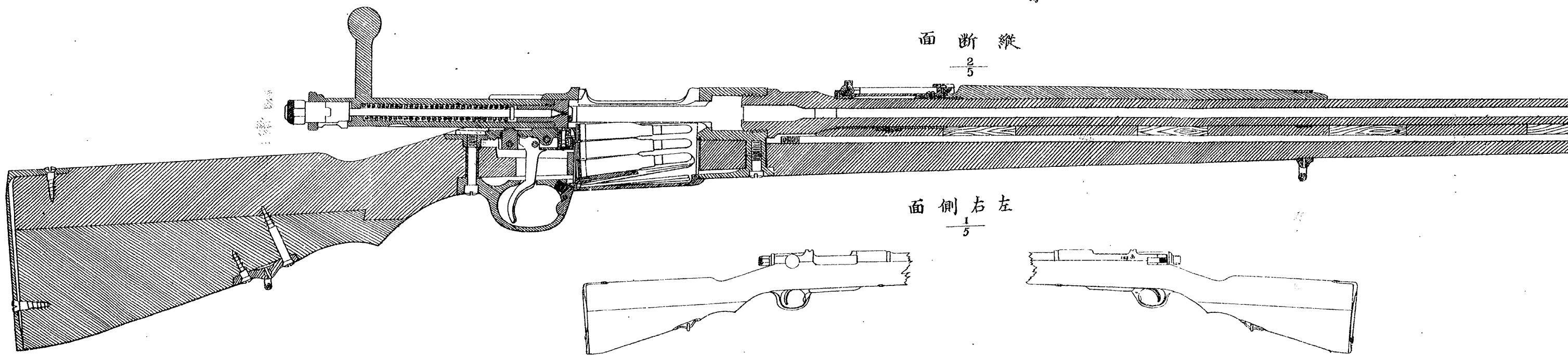
圖 一 第

面 断 縦

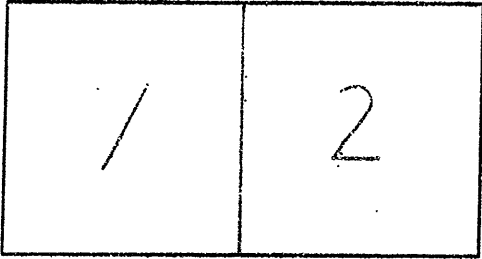


$\frac{2}{5}$

面 側 右 左

$\frac{1}{5}$



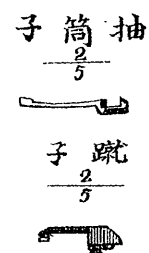
# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>※上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>11年10月28日</p> <p>主務者又は 撮影立会者</p> <p>上野英樹  </p>	

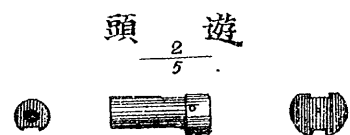
圖二第  
面斷縱身銃  
 $\frac{1}{2}$



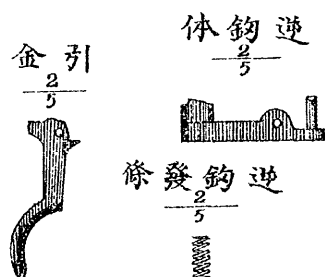
圖七第



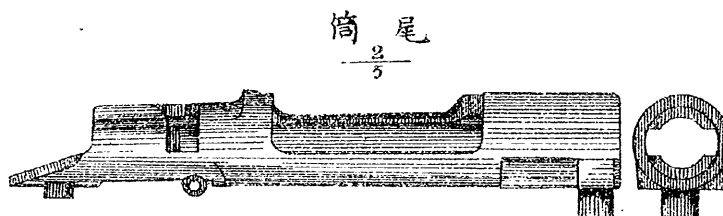
圖六第



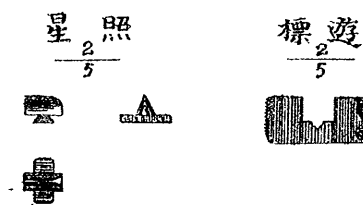
圖五第



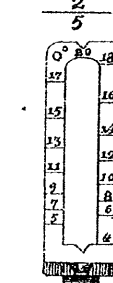
圖四第



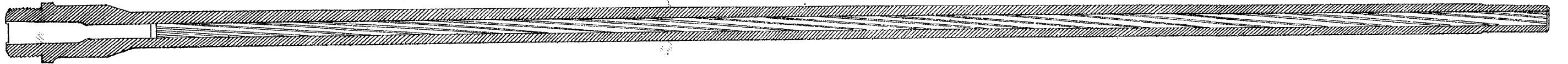
圖三第



飯尺表



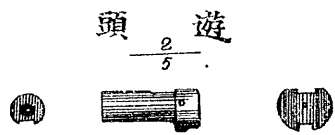
圖二第  
面斷縱身銃  
 $\frac{1}{2}$



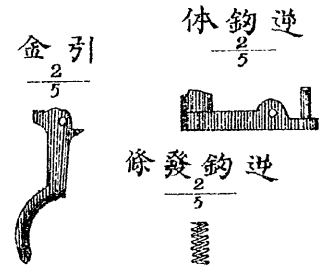
圖七第



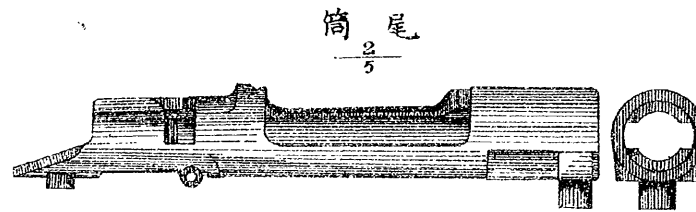
圖六第



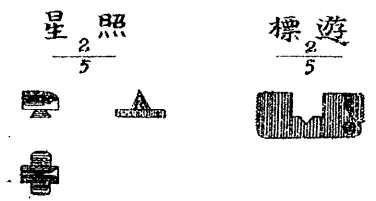
圖五第



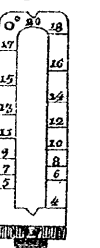
圖四第



圖三第



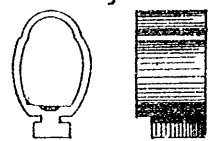
飯尺表  $\frac{2}{5}$



三十年式歩兵銃及騎銃保存法附圖

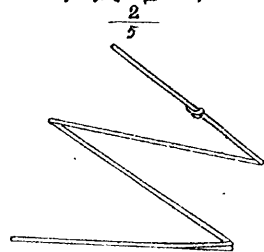
圖八十第

帶上  $\frac{2}{5}$



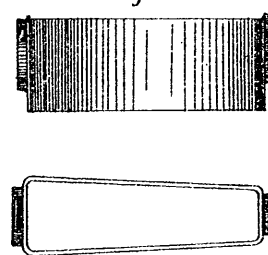
圖六十第

條發倉彈  $\frac{2}{5}$



圖四十第

倉彈  $\frac{2}{5}$



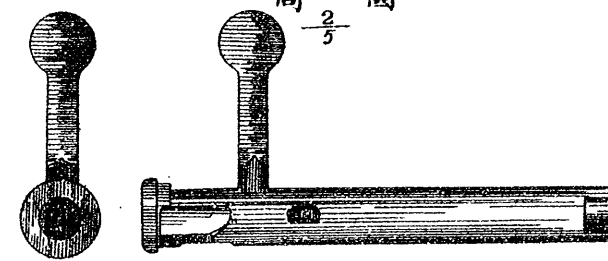
圖一十第

擊莖  $\frac{2}{5}$



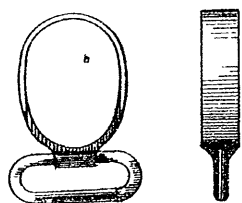
圖八第

筒圓  $\frac{2}{5}$



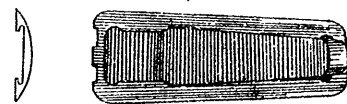
圖九十第

帶下  $\frac{2}{5}$



圖七十第

底倉彈  $\frac{2}{5}$



圖五十第

受筒  $\frac{2}{5}$



圖三十第

擊莖駐螺  $\frac{2}{5}$



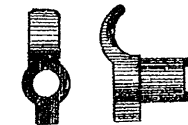
圖二十第

擊莖發條  $\frac{2}{5}$



圖十第

副鐵  $\frac{2}{5}$





圖九第

擊鐵  $\frac{2}{5}$



三十年式步兵銃及騎銃保存法附圖

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	<table border="1" data-bbox="571 488 1054 741"><tr><td data-bbox="571 488 815 741">1</td><td data-bbox="815 488 1054 741">2</td></tr></table>	1	2
1	2		
分割撮影 した 理由	A 3 判以上のため		
<p data-bbox="236 1196 1326 1352">*上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p data-bbox="363 1514 932 1576">11 年 10 月 28 日</p> <p data-bbox="533 1697 831 1756">主務者又は</p> <p data-bbox="528 1861 831 1919">撮影立会者</p> <p data-bbox="1007 1868 1433 1935">上野英樹  </p>			



圖六廿第  
器除掃室藥  
 $\frac{2}{5}$



圖五廿第  
管洗  
 $\frac{2}{5}$



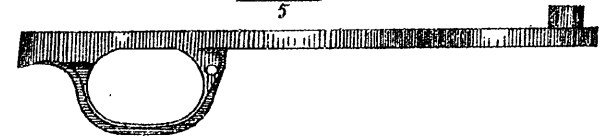
圖四廿第  
蓋口銃  
 $\frac{2}{5}$



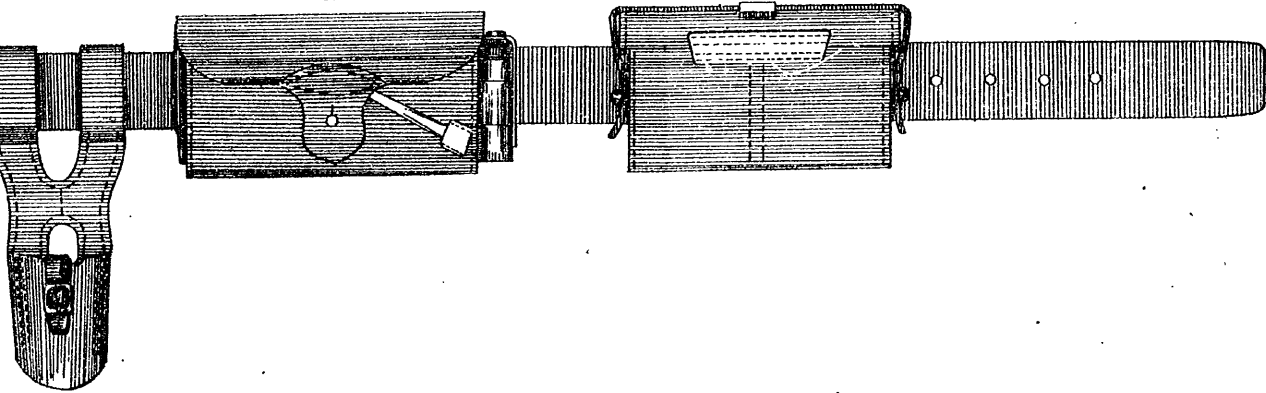
圖一廿第  
冠床  
 $\frac{2}{5}$



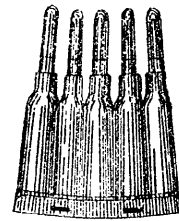
圖十二第  
鉄心用  
 $\frac{2}{5}$



圖九廿第  
盒藥彈  
 $\frac{2}{4}$

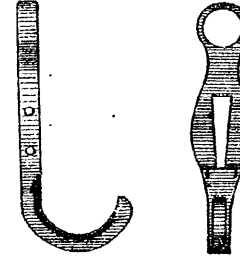


圖八廿第  
藥彈



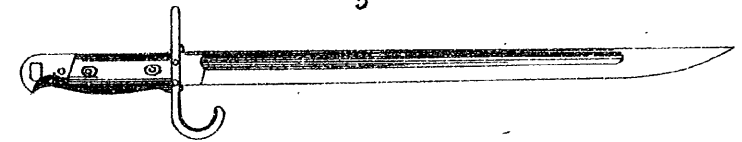
$\frac{2}{5}$

圖三廿第  
鐮  
 $\frac{2}{5}$



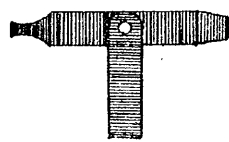
$\frac{2}{5}$

圖二廿第  
身劍  
 $\frac{2}{5}$



三十年式歩兵銃及騎銃保存法附圖 畢

圖七廿第  
器螺轉  
 $\frac{2}{5}$



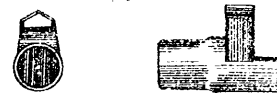
圖六廿第  
器除掃室藥  
 $\frac{2}{5}$



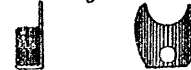
圖五廿第  
管洗  
 $\frac{2}{5}$



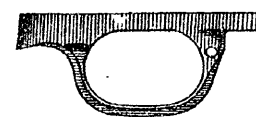
圖四廿第  
蓋口銃  
 $\frac{2}{5}$



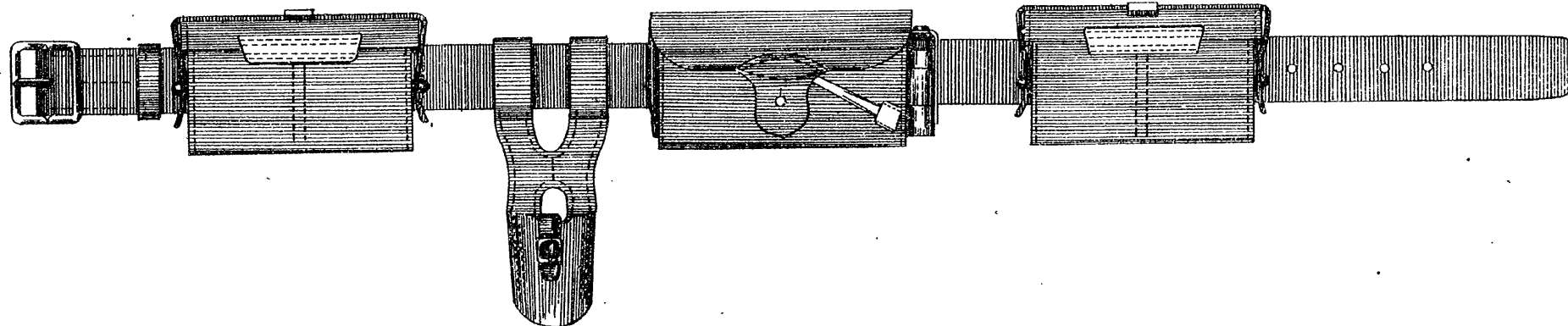
圖一廿第  
冠床  
 $\frac{2}{5}$



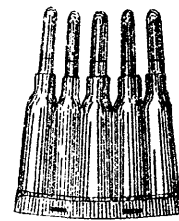
圖十  
鉄



圖九廿第  
盒藥彈  
 $\frac{2}{4}$

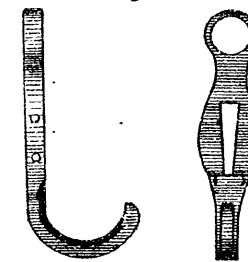


圖八廿第  
藥彈



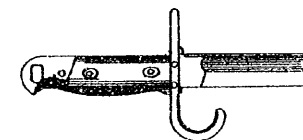
$\frac{2}{5}$

圖三廿第  
鋸  
 $\frac{2}{5}$

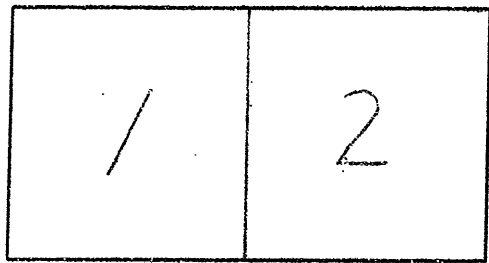


$\frac{2}{5}$

圖



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため

上記のとおり分割撮影したことを  
証明する

11年10月28日

主務者又は

撮影立会者



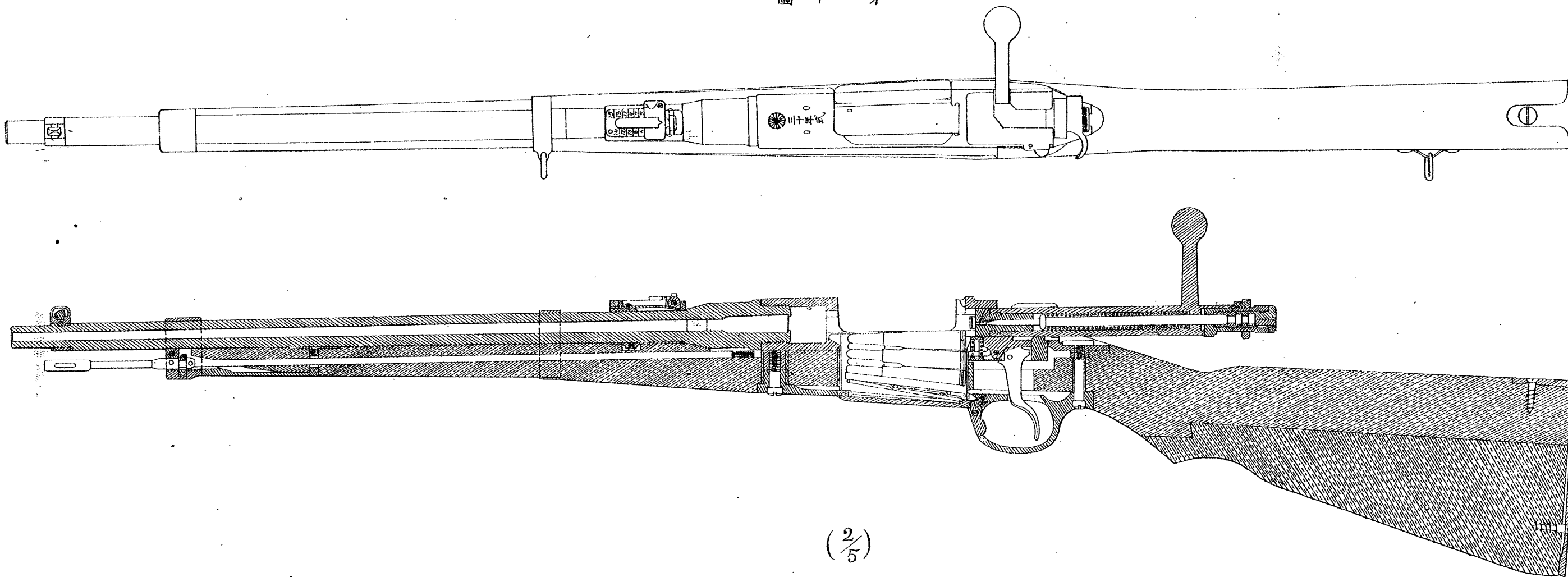
上野英樹  

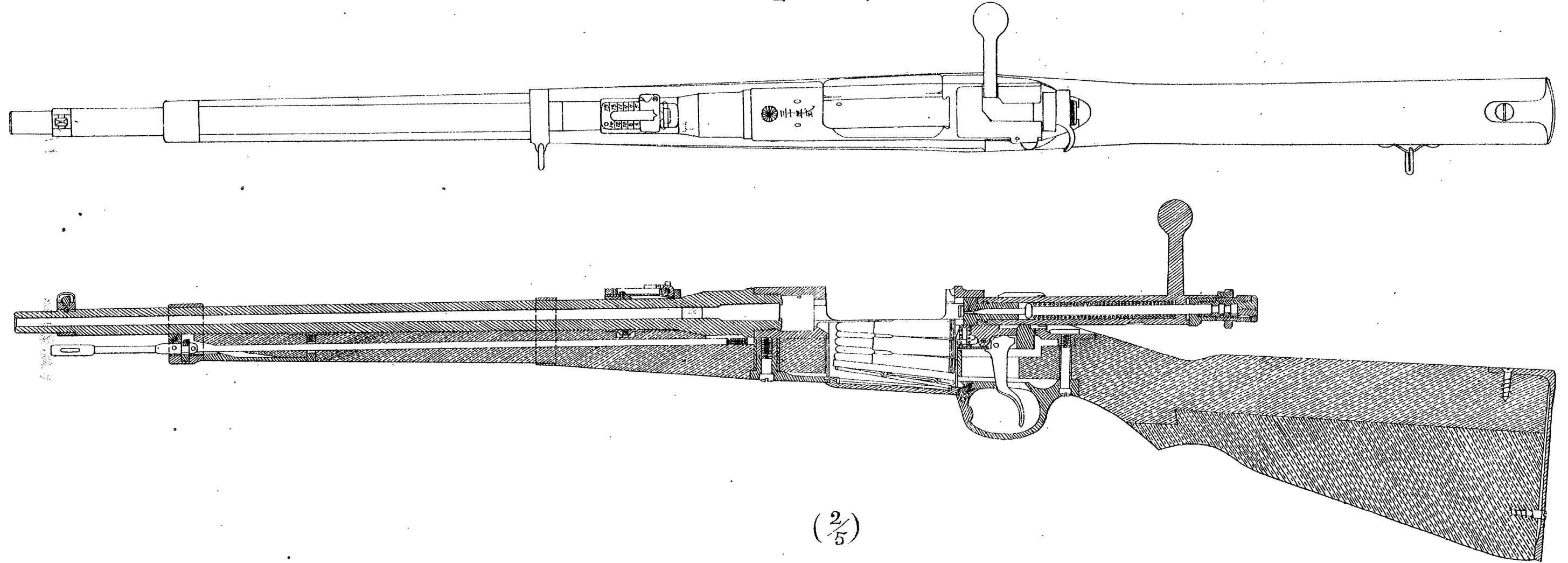
圖 十三 第



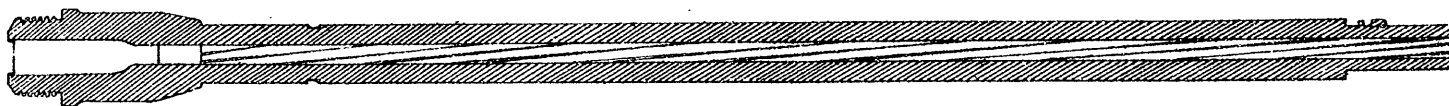
2037

版五第 2038

圖十三第



圖一十三第  
身 銃

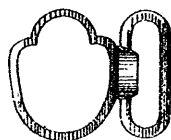


$\frac{2}{5}$

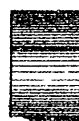
圖五十三第  
蓋口銃



圖四十三第  
帶 下



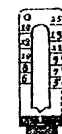
圖三十三第  
帶 上



$\frac{2}{5}$

圖二十三第

飯尺表



坐星照



標遊





星照



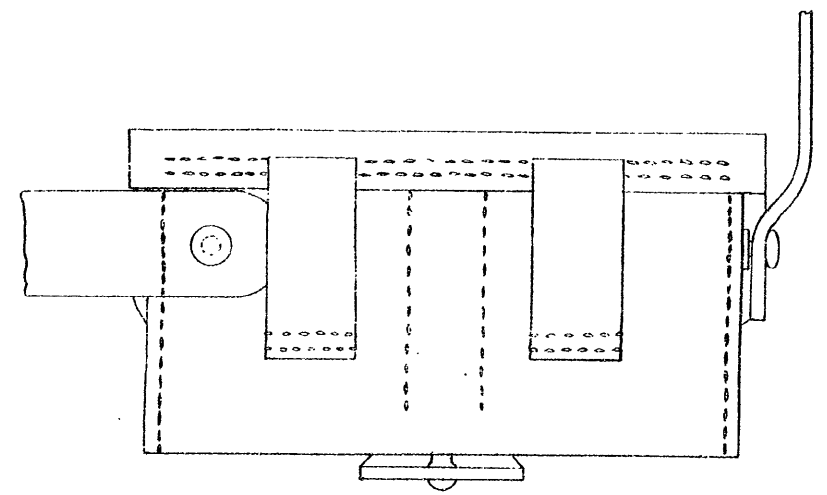
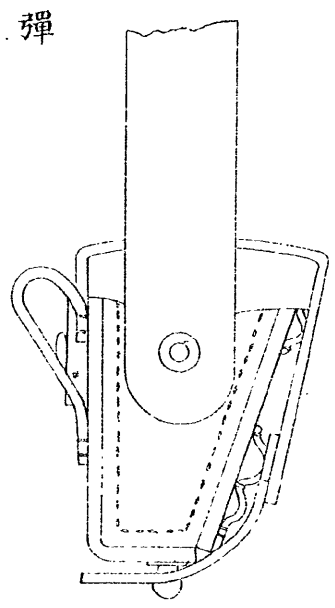
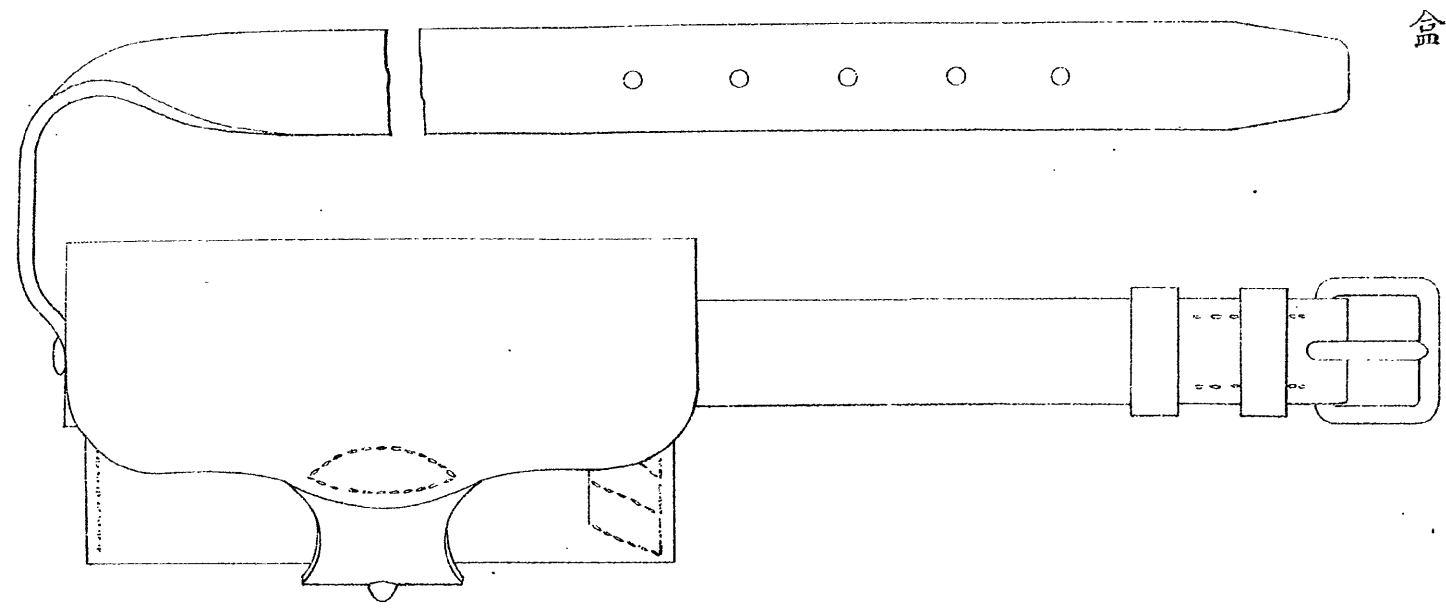
三十年式歩兵銃及騎銃保存法附圖

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1" data-bbox="558 504 1045 761"><tr><td data-bbox="558 504 798 761">1</td><td data-bbox="798 504 1045 761">2</td></tr></table>	1	2
1	2		
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため		
<p data-bbox="215 1209 1316 1377">*上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p data-bbox="343 1523 917 1601">11 年 10 月 28 日</p> <p data-bbox="518 1713 813 1780">主務者又は</p> <p data-bbox="518 1881 813 1948">撮影立会者</p> <p data-bbox="997 1881 1428 1960">上野英樹  </p>			

圖六十三第

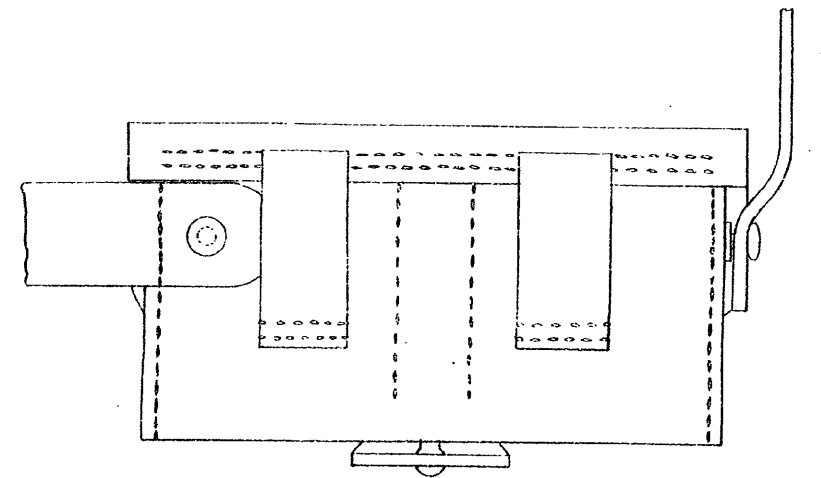
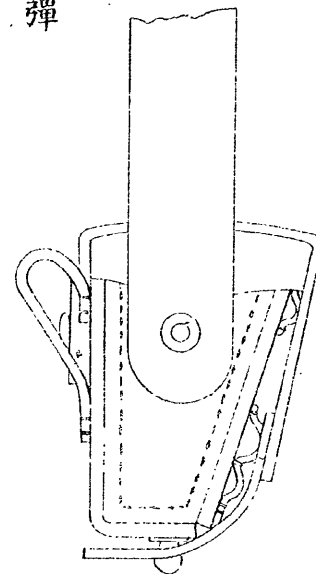
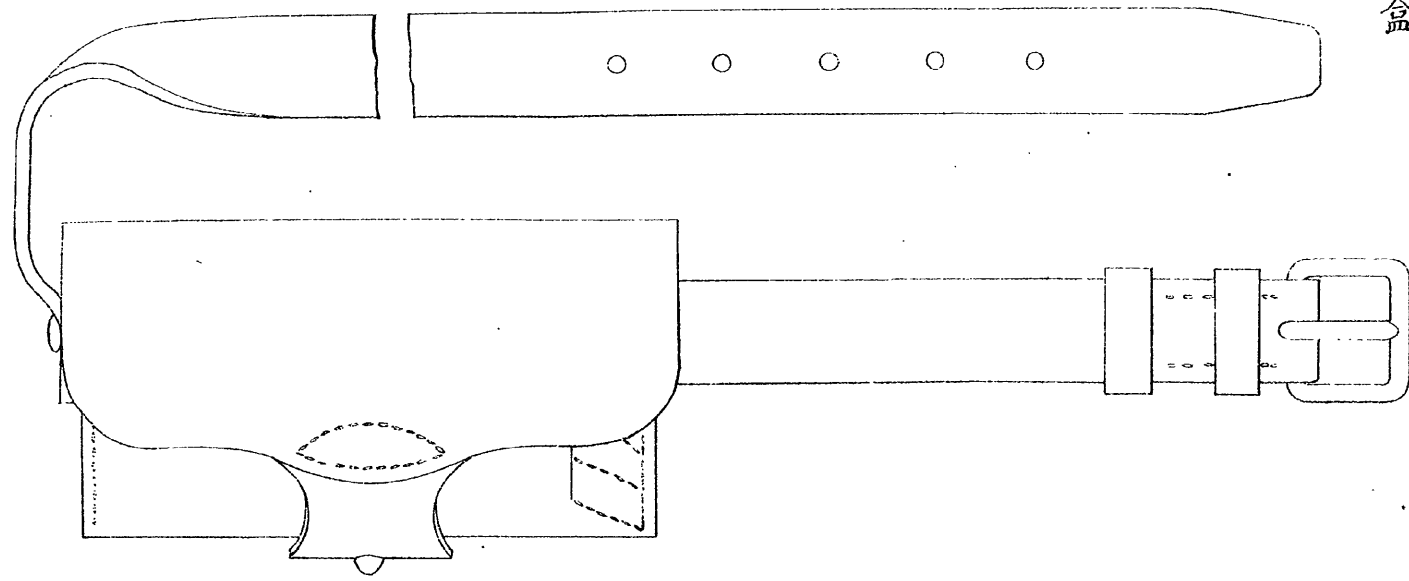
盒藥彈



三十年式歩兵銃及騎銃保存法附圖

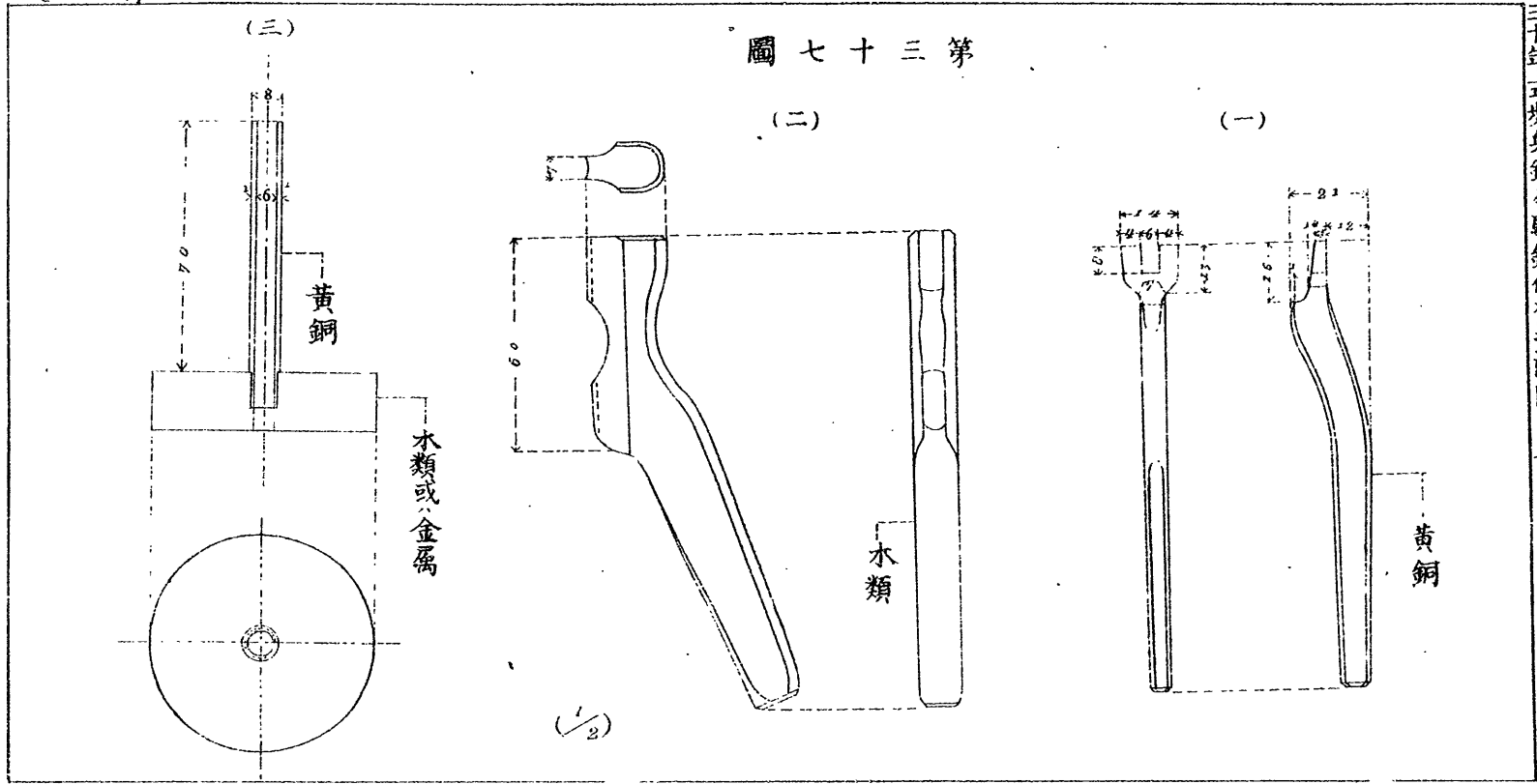


圖六十三第  
盒藥彈



三十年式歩兵銃及騎銃保存法附圖

圖七十三第



三十年式歩兵銃及騎銃保存法附圖 畢

2043

明治三十二年十二月二十日印刷  
十二月廿二日發行

著作權  
所有

陸軍省

東京市京橋區五郎兵衛町廿一番地

印刷者 小林 又七

陸軍省構内

印刷所 小林出張所

2044

三十年式歩兵銃使用法草案